

(4) 世界に開かれた交流と共生の島

アジア・太平洋地域に隣接する島しょ地域である沖縄は、地理的、歴史的背景から世界との交流のフロンティアとして位置づけられる。

平和を希求し生命を尊ぶ沖縄の心、人間尊重と共生の精神を基に、伝統、文化、自然環境など沖縄の特性を活かした国際社会への貢献を図り、世界を結ぶ架け橋となることが求められている。

① 県民が望む将来の姿

- ・ 私たちは、長い歴史の中で育まれてきた風土や「沖縄の心」を大切に、日本とアジアの架け橋としてアジアの発展に貢献している。
- ・ アジア地域との交流の歴史や海外移民、戦後の米国との係わりなど沖縄独自の国際交流の蓄積は、開放的で国際色豊かな風土として息づいている。また、私たちにも、異文化を受け入れる寛容性やホスピタリティの「沖縄の心」として受け継がれている。
- ・ 沖縄では、アジアの中心に位置する地理的特性を活かし、ヒト・モノ・文化など多様な交流が盛んであり、アジアの中の沖縄として発展している。
- ・ 沖縄科学技術大学院大学を核とした国際的な研究機関が集積し、多くの研究成果を活かした新産業が創出されている。
- ・ 私たちは、国益・地球益に寄与する地域として、世界の島しょ地域における環境技術の発信など国際貢献を進めている。
- ・ 先の大戦で、沖縄が焦土と化した悲惨な歴史を踏まえ、命どう宝など平和を愛する「沖縄の心」を世界に発信している。こうした取り組みは、世界からも注目され、世界平和の受発信拠点として、国際紛争や対立の緩衝拠点として、国連機関等の集積にもつながっている。

② 将来像の実現に向けて重視すべき要素

- ・ アジア・太平洋地域に隣接する島嶼圏沖縄は、地理的、空間的位置および歴史的背景から世界との交流のフロンティアとして位置づけられる。沸騰するアジアのダイナミズムとの経済交流は沖縄の自立経済にとって機会の到来であり、アジアのゲートウェイとしての役割が求められている。

- ・ 沖縄は地政学的な優位性や中国、台湾、アジア等との歴史的関係もあり、アジア・太平洋地域の発展にビルト・インすることによって発展する可能性は高い。
- ・ 沖縄の人々は、琉球王国の時代から、日本、中国、東南アジアの架け橋として栄えており、「万国津梁」の精神で、三角貿易を通じて東アジアの中心として「平和的共存共栄の世界」を実現してきた。かつての中国との歴史的関係性を蘇生させれば沸騰する中国のみならず華僑の存在するアジアのダイナミズムにネットワークを通じて繋がられる。
- ・ ネットワークは大きな組織に組み込まれることなく、数の力が得られ、お互いの知識や技術を補完することで単独ではできない相乗効果を可能にする。生産要素を産業ネットワークで効率的に組み合わせ、商品化するというコーディネート力によって、産業立地の不利性を克服し比較劣位を比較優位に転換できる。ネットワークの発達には、単に経済発展を超えて文明の展開そのものを規定するとさえいわれている。
- ・ また、今時大戦で多くの県民が被害に遭った経験もアジアの各国と共有しており、国際紛争の緩衝地としての「東洋のジュネーブ」の役割を任じ、ソフトパワーによる平和と繁栄に貢献できる。
- ・ 自由化、アジアへの経済的シフトを基底にしつつも、自由化は諸刃の剣であるため、地域に負の影響を及ぼす要素を排除する制御にも考慮すべきである。県民の利益を損なう自由化にはローカルルールを課し、自由と制御のバランスの下、県民の厚生と地球益との最大化と両立を目指す。

③ 基本的課題

● 国際外交における沖縄の役割

- ・ 亜熱帯島しょ圏等の地域特性を活かした国際貢献とともに、アジア・太平洋地域の平和と持続的な発展に寄与する沖縄自身の取り組みが求められる。
- ・ 今後の国際情勢を見据え、我が国及び新時代の沖縄の振興に向け、どのような国際戦略を構築し、展開を図るか。また、沖縄によるアジア・太平洋への貢献を実現するため、どのような国際戦略を構築し、展開を図るか等が課題である

● 国際交流・共生

- ・ 日本本土、中国大陸、東南アジア諸国を結ぶ中心部にある沖縄の地理的優位性を活かし、アジア・太平洋諸国との人的・物的交流ネットワークを形成していくことが重要である。
- ・ 国際的な相互依存が進む中で、どう交流を発展させていくか。また、多面的なネッ

トワークを通じた経済的な発展を、どう図っていくか等について検討する必要がある。

● 国際協力・貢献

- ・ 世界人口の増加に伴い、食糧や水、資源、エネルギー等の需要が急激に増加することが予測されており、今後、地球規模の課題が深刻化すると考えられる。特に、温暖化など地球規模での環境問題については、洪水や暴風雨の頻発など島しょ地域への大きな影響が想定される。
- ・ アジア・太平洋地域における国際的な課題の解決に向け、沖縄が地理的な特性を生かしてできることは何か。また、島しょ国等に対して沖縄が貢献できることは何か等が課題である。

● 平和の発信と世界平和への貢献

- ・ 第二次世界大戦後 60 年余が経過し、沖縄が焦土と化した悲惨な体験の記憶も年々薄らいできている。命どう宝という平和を希求する「沖縄の心」をどのように生かし、発信していくか。沖縄として、世界平和にどのように関与し、貢献していくかを検討することは重要である。
- ・ 在沖米軍基地の整理・縮小をどのように進めていくかが課題である。

(5) 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

資源が少ない島しょ地域である沖縄が発展する最大の拠り所は人材である。時代変化に対応し、先見性に富み、発展を支える人材の育成が求められている。

① 県民が望む将来の姿

- ・ 私たちは、島しょ圏 沖縄において、「人材こそが最大の資源」との考えを共有している。
- ・ 人材の育成は、心豊かな人間を育てることにはじまり、家庭と地域が連携して、幼い頃よりけじめや躰など人間教育を行っている。また、地域の自然や歴史、伝統、文化を伝え、地域を大切に、誇らしく思う人間を育てている。
- ・ 充実した教育環境の下、子ども達は地域への誇りを持ち、大きな夢と目標を抱いて生き生きと学んでいる。
- ・ 沖縄の学力や進学率など教育水準は高く、語学教育が充実している。高校卒業時までに二カ国語以上が話せるようなカリキュラムが生まれ、世界で活躍できる人材を輩出している。
- ・ 誰もが、いつからでも、学びたい時に学べる環境が整い、学べる喜びをいつまでも享受している。
- ・ 私たちは、沖縄がめざすべき方向性を見据え、戦略的な方針を共有しつつ人材育成を行っている。観光産業や情報通信産業、地域産業を担う人材はもとより、多様な分野においてグローバルな視点で地域を支えていける人材を育成している。
- ・ 新しいことにチャレンジできる環境が整っており、私たちは失敗を恐れず、挑戦し続けている。再チャレンジしやすい環境の下、私たち一人ひとりが個性と能力を存分に発揮し、生きがいを実感し続けている。

② 将来像の実現に向けて重視すべき要素

- ・ 天然資源の賦与が少ない島嶼圏沖縄が発展するためには、最も重要な要素は人材である。かつて、中国よりの帰化人、閩人^{びんじん}三六性が渡来し、ビューロクラート、テクノクラートとして当時の琉球王朝を支えたと言われている。彼らは北京に留学し同時に最先端の学問、技術をもたらし、人材が発展を支えた。

- ・ 沖縄で最も力を入れるべき政策の一つは教育、人材育成である。島嶼である沖縄では、外のネットワークを構築し、域内資源の狭隘性を補完して、相互利用してしか発展出来ないからである。それを行うのは人的資本である。
- ・ 国際化が進行する中で時代変化に適応し、英知によって発展の糸を紡ぐのは人である。人材は、天賦の宝であり、発展力でもある。希望と夢の原石として捉え、時代変化に対応し先見性に富み、発展を支える技術を持った人に磨き上げる。
- ・ 知のネットワークを形成し、世界に通用する学力主義だけでない、ユニバーサルな教育システムを開発していく。それによる知性と適応能力を備えた総合的な能力、つまり「人間力」を備えた人材の育成を目指す。
- ・ アジアをはじめ世界との交流を通じて、世界水準の知の拠点を形成し、グローバルスタンダードの知的水準を具備した人材の育成を図り、世界に通用する人材を輩出する。

③ 基本的課題

● 人間形成

- ・ 家庭や学校等におけるけじめや躰、道徳心など人間形成をどのように図っていくかが課題である。
- ・ また、核家族化の進行や単身高齢世帯の増加など人間関係が希薄化しており、人間形成を図っていく上で、地域社会の役割を高めていくことも課題である。

● 教育

- ・ 教育については、家庭・学校・地域の役割と連携が重要である。
- ・ 子ども達の確かな学力の定着と、豊かな心・健やかな体を育むためには、家庭教育及び学校教育、地域社会における教育はどうあるべきなのか。また、離島をはじめとする沖縄全域での学校教育の充実をいかに図るかが重要である。
- ・ グローバル化や情報化等が進展する中、高い国際性と専門性が求められており、国際社会で活躍できる人材をどう育成していくか、高等教育の充実をいかに図っていくかが課題である。
- ・ さらに、生涯にわたって学習することができる社会的基盤をどうつくっていくか等が課題である。

● 人材育成

- ・ 資源に乏しい島しょ地域においては、人材の育成が重要であり、沖縄の将来を担う各分野の人材をどう育成し、活用していくかが課題である。
- ・ 個々人が多様な能力を開発し、社会貢献できる人材として自己を高める意識をどう醸成していくか。時代のニーズに対応した人材育成をどう進めるか等も重要な課題である。